

防災まちづくり懇談会ニュース

令和3年12月発行

「町会別防災まちづくり懇談会」を開催しました！

小田地区における「防災上重要な道路の配置」についてご提案しました。

「町会別防災まちづくり懇談会（4）」概要

開催日時：10～11月の各役員会等に合わせて実施

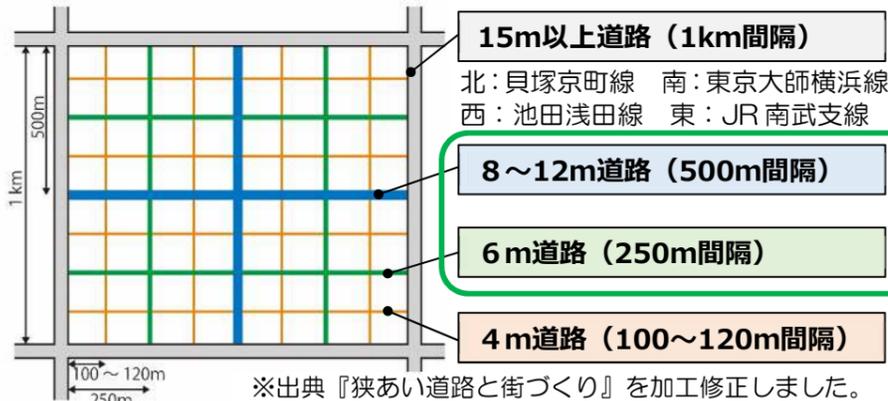
開催町会：小田1丁目町内会（11/1）、小田中央町内会（10/2）、小田3丁目町内会（10/8）、小田五六町内会（10/28）、浅田1・2丁目町内会（10/23）

場所：各町内会館 内容：防災上重要な道路の配置について

① 道路の配置モデルの考え方（R2年度防災まちづくり懇談会で説明）

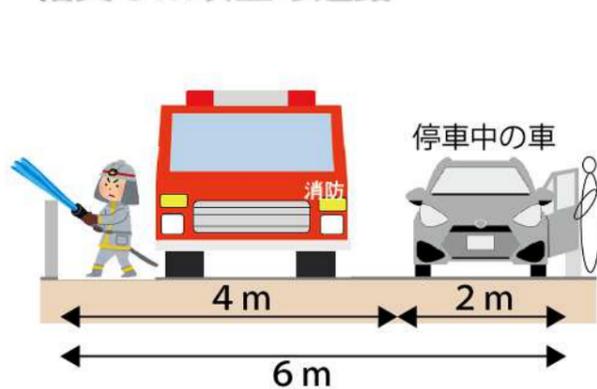
道路は幅員により担える機能が異なります。この機能の違いを踏まえた幅員別の配置間隔（モデル例）は次のとおりです。

道路ネットワークのモデル例



下図のように災害時の地区外への避難や消火活動等の機能確保において重要な役割を担います。

幅員6m以上の道路



■仮に路上駐車があっても消防車が通行可能であり、消防車を停めて消火活動をすることができます。

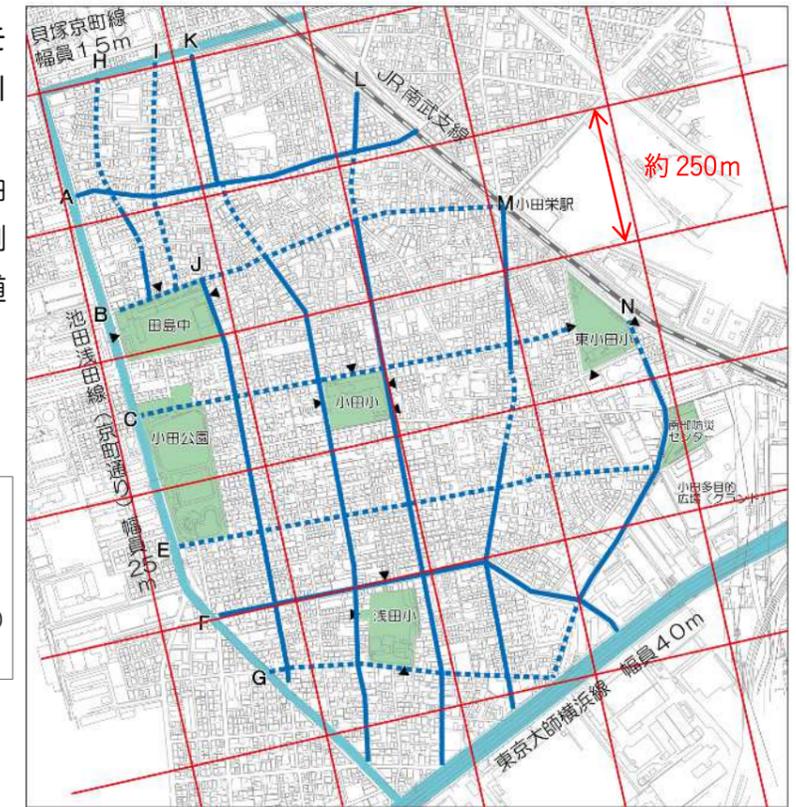


■地震時において、塀の倒壊や建物からの落下物で両側が1mずつ塞がれても、緊急車両が通行でき、応急活動などが行えます。

② 望ましい防災上重要な道路の配置

小田地区に道路ネットワークのモデルを当てはめ、250m間隔で線を引くと、右図の通りになります。

現状の道路のうち、250m間隔で抽出された道路が、災害時に重要な役割を担うための道路（防災上重要な道路）となります。



- 【凡例】
- 現道幅員 6m以上
 - - - 現道幅員 4m以上 6m未満
 - 指定避難所（小田公園は広域避難場所）
 - ▲ 施設入り口

各町内会からの意見

- 抽出された道路は、「避難の際に通る可能性が高い道路」である。
- 線路沿いの通路も狭く、避難の際不安がある。
- これらの道路に至るまでの4m未満の道路の課題解消も大切である。

町会別防災まちづくり懇談会（4）のまとめ

- 災害時に重要な役割を担う道路は、250m間隔で配置されていることが望ましく、その機能を確保すべき道路を抽出し、ご提案させていただきました。
- 抽出された道路は、「避難の際に通る可能性が高い道路」である等の意見も頂いた一方、災害時の地区外への避難や消火活動等の機能をどのように確保していくか、については引き続き今後の懇談会のなかで提案し、議論していきたいと考えています。

次回の防災まちづくり懇談会ニュースについて

次回のニュースでは、11月から順次開催している「防災上重要な道路に囲まれた街区内の課題」をテーマにした懇談会と「まち歩き」についてお知らせします。